

平成28年度修士論文要旨

『平家正節』に見られる音調の反映 —無譜記語の調査を中心に—

王 鳴 鶴

本論文では、「鱸」・「卒都婆流」・「紅葉」・「竹生鳥詣」・「生食」・「宇治川」・「横笛」・「那須与一」という八つの章段を中心資料として扱い、その中で現れている無譜記語を中心に調査を行なう。無譜記に関する分析方法としては、基本的にアクセントの反映かイントネーションの反映かという二つの観点から考えていく。平板アクセントであれば、低起平板で無譜記になっているのか、それともイントネーションで無譜記になっているのかという区別を考える。

また、本論では、イントネーションに関する音声特徴の中で、譜本における無譜記とのかかわりの可能性が考えられるもののうち、どのかかわりがどのような場合にどの程度関係してくるのかを詳しく検討していく。前田(2007)が「1、いわゆるダウンステップと無譜記とのかかわり、2、(アクセント核位置での高ピッチ実現と比較した)式特徴による語頭での高ピッチ実現の相対的弱さと無譜記とのかかわり(特に無核語の場合)、3、(焦点や対比要素と比較した)主題や背景要素の韻律上の弱さと無譜記とのかかわりに関する検討等が考えられる。このような検討をすすめていくことが、平曲譜本を資料として用いた、イントネーション研究の可能性を広げ、より確かなものとする上で必要な基礎的作業となると思われる」と述べられている。本論では、以上の三点を検討してみる。

調査方法としては、先ず、文章を音韻単位で一つ一つの文節にほぼ相当する「語」に句切る。そしてエクセルの表で索引や辞書を参照した「語」のアクセント情報を作成し、その「語」は高起式であるか低起式であるか、又有核無核かということを判定していく。

高校国語科における

セクシュアル・マイノリティ教材の選定と提案

—谷村志穂「雪ウサギ」を中心に—

木村希美子

はじめにでは過去のジェンダーフリーバックラッシュと、特定の性教育実践への攻撃をふまえ、教育で性を学ぶ必要性に触れたあと、今日のセクシュアル・マイノリティと教育にかんする機運の高まりについて紹介した。

第一章ではジェンダースタディーズが盛んになる2000年以降に出された高校国語科教科書180冊を調査し、ジェンダーについて扱っているもの、セクシュアル・マイノリティについて扱っているものの有無を調べた。調査の結果、セクシュアル・マイノリティについて明示的に触れたものは一つとして見つけることができなかった。しかし、採録した教科書会社は「油状」をテーマとしている教材で、同性愛の物語として読解できる教材、谷村志穂「雪ウサギ」を見出すことができた。

第二章においては、新たにセクシュアル・マイノリティの教材を選定する際のテーマについて、セクシュアル・マイノリティと教育についての論考の使用語彙を分析し、客観的なデータから選定した。

第三章の前半では高校国語でセクシュアル・マイノリティを扱った授業実践を紹介し、その課題について整理した。授業の中でセクシュアル・マイノリティの知識・理解をはかる場合、総合的な学習の時間など他教科と連携をとる形での授業も考えられることを確認した。国語科での知識・理解の教材として当事者の声が反映された『カミングアウト・レターズ』の作品の可能性についても論じている。

第三章の後半では第一章の教科書調査で見出した「雪ウサギ」を国語の既存の読解指導の中で扱うために分析し、学習指導案を提示した。

おわりにでは本研究の結びとして国語科でセクシュアル・マイノリティを扱うこと、教育でセクシュアル・マイノリティを扱うことの意義について述べている。

タイ人日本語学習者のコロケーション習得に関する基礎研究 —日本語「気」を含むコロケーションを中心に— ソムキヤット タミ

日本語「気」に類似する代表的なタイ語は「CAI」である。しかし「CAI」は日本語の「心」に相当する言葉でありながら「気」の意味にも含まれているため、タイ人日本語学習者にとって「気」のコロケーションを習得する際の誤用の要因になっていると言われている。このような類義語を含むコロケーションの習得を妨げる要因の一つとして母語の干渉を想定することができるであろう。そこで、本研究は、名詞「気」と動詞または形容詞という組み合わせで構成されるコロケーションの習得において、どのような母語干渉が起こりうるか、誤用の要因となっているかを調査した。つまり、タイ語「CAI」が影響しているかどうかを明らかにすることが目的である。

第1章では、日本語学習者がコロケーション習得研究における現状と問題点を踏まえ、特に、名詞と述語のコロケーション、「名詞＋動詞/形容詞」の組み合わせに着目した。

第2章では、日本語「気」「心」、タイ語「CAI」のコロケーションの形態的、意味的類似性を整理した。まず、「気」「心」「CAI」単独での辞書における意味記述を整理し、それぞれの共通点と相違点をまとめた。次に、先行研究を参考にしながら、「気」「心」「CAI」のコロケーションの意味用法をそれぞれ整理し、その共通点と相違点をまとめた。さらに、主要辞書をデータとして「気」と「CAI」のコロケーションの形態的、意味的類似性をさらに詳細に分類し、その特徴を明らかにした。

第3章では、主要な初級日本語教材、及び日本語コーパスにおける「気」のコロケーションの提出実態を明らかにした。

第4章では、タイ人日本語学習者を対象とした正誤判断テストと解答を選択する自由記述の結果から、日本語「気」のコロケーション習得における誤用の要因を考察した。調査の結果、タイ人日本語学習者の「気」のコロケーション習得において日本語能力中級レベルN3は初級レベルのN4、N5と違い、日本語「気」とタイ語「CAI」のコロケーションの形態的、意味的類似性を分類したパターンが誤用の出現に影響している可能性があることが明らかとなった。また、レベルが高い学習者にとって既習である可能性の高いコロケーションが必ずしも習得が容易で正答率が高いとはいえないため、コロケーション習得には適切な指導が必要であることも確認された。

中国人看護師（候補者）に対する日本語支援に関する基礎研究 —看護記録語彙の特徴分析—

林 琳

近年、看護師国家試験合格率が高いなどの理由で、民間の病院で働いている中国人看護師が急増してきた。その人数はEPA看護師の2倍を超えた。しかし、EPAの枠組みに属さない中国人看護師（候補者）の受入れ現状や日本語運用実態、勤務上の日本語問題等については、管見の限り、あまり研究が進められていない。特に、中国人看護師の国家試験合格後の課題が指摘されており、看護現場の円滑な業務遂行のための支援は喫緊の課題であると言える。

そこで、本論文では、先行研究で十分に把握していない中国人看護師（候補者）の受入れ、学習支援、日本語問題状況を明らかにした。その上、明らかになった難関業務の看護記録作成を取り上げ、実際の看護記録データを語種別、品詞別に分析し、語彙の様相を探った。また、看護記録に使用されるオノマトペとコ・ソ・ア系指示詞の実態を明らかにした。さらに、看護記録語彙を看護師国家試験語彙と比較し、その重なり度合いを確認した。最後に看護記録語彙に対して日本語能力試験級の判定を行い、看護記録語彙を級内語彙と級外語彙に整理した。

語種分析の結果は、各診療科における語種の使用傾向が同様であった。また、S情報では和語の使用が最も多かった。一方、O情報・A情報・P情報では漢語の使用が最も多かった。さらに、アルファベット略語は中国人看護師（候補者）を困らせる語彙ではないことが分かった。品詞分析の結果は、各診療科における品詞の使用傾向が同様であった。

また、感動詞の使用はS情報にのみであった。O情報・A情報・P情報では名詞の使用は非常に多かった。語彙分析の結果は、各診療科で共通使用される高頻度名詞語彙もあれば、各診療科で個別使用される高頻度名詞語彙もあった。また、S情報でのオノマトペの使用は圧倒的に多かった。さらに、S情報ではコ系指示詞の使用は半数以上であった一方、O情報・A情報・P情報ではソ系指示詞の使用が非常に多かった。

次に、看護記録語彙と看護師国家試験語彙との重なり度合い確認の結果は、述べ語数では全体の8割前後が重なっており、異なり語数では全体の6割前後が重なっていた。次に、看護記録語彙の日本語能力試験級の判定結果は、全体の4割が級外語彙で、6割が級内語彙であった。また、級内語彙の中で、2級語彙と4級語彙が相対的に多かった。最後に、量的分析で言及できなかったが、今後の中国人看護師（候補者）に対する専門日本語教育に役立つ点をいくつか述べた。

今後は、現場の看護師の視点や、日本の医療機関に勤務する中国人看護師（候補者）の視点から、級内語彙・級外語彙の更なる整理を行う必要がある。